

ともに生きる

No.30

平成 27 年 9 月 1 日発行



第2回ふくさきマラソン



目 次

・後援会会长挨拶	・学長挨拶	2
・入学式	・サマー・キャンプ	3
・ふくさきマラソン	・ネパール大地震募金活動報告	4
・学友会の活動		5
・学園祭に向けて		6
・地域紹介 カッパ	・教職課程の取り組みについて	7
・キャリアサポート部の取り組み	・国家試験にむけて	8
・大阪天王寺キャンパス	・先輩に聞く	9
・今後の主な学事日程	・フレッシュマン交流会	10
	・新任教員の紹介	



ご挨拶

後援会会長

たに ぐち けん いち
谷 口 健 一

初秋の候、会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。新入生の皆さん、新たに後援会に加入していただいた保護者の皆様に、心からお祝いと歓迎を申し上げます。

神戸医療福祉大学は、学生達の自己の福祉的個性を伸ばし、文化の創造発展に貢献できる福祉の専門家を育てていくことに情熱を注がれ『個性の伸展による福祉社会を力強くリードしていく人材の養成』を教育の基本理念とされています。また、福祉6分野でそれぞれ高度な技術・知識を習得し、最も大切な社会に貢献できる個人を育む為に、自然豊かなキャンパスと山々に囲まれた福崎の地で、地域の皆さんとの交流を深め、クラブ・サークル活動、学園祭などで学生が生き生きと活動しています。ぜひ会員の皆様も学園祭などにご参加され、肌で感じてみてはいかがでしょうか。地域への連携と関わりを持ち様々な経験を積んで、社会人としてのマナーや常識を身につけること、元気なあいさつや返事、笑顔、誠実な言動により「こころの福祉」が実践できる豊かな人間性も養ってほしいと願っています。

大阪天王寺キャンパスではネパールからの留学生を中心に、ネパール大震災の被災者を支援しようと、キャンパスの最寄り駅で街頭募金を行ない読売新聞にも掲載されました。

神戸医療福祉大学後援会としても、より良き学生生活の充実に向け教育事業の補助、学生課外活動の補助を継続し、キャンパスライフは学業だけではなく、地域とのかかわりや部活動のなかでの学びも支援することにより、学生の諸君が、今やれることを一生懸命やりぬくことを応援します。会員はじめ皆様の引き続き一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、教職員の皆様、地域の皆様に日々の感謝を申し上げるとともに、会員各位を含め今後の健勝と神戸医療福祉大学の益々の発展をご祈念いたします。



ご挨拶

学長 つづき あすか
都築 明寿香



後援会の皆様におかれましては、日頃から本学に対し、多大なるご支援・ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

本学が神戸医療福祉大学へと校名変更し、3年目をむかえました。四葉のクローバーや四葉犬（しばけん）ハッピーちゃんとともに「神福大（こうふくだい）」の呼び方も広く定着してきた感があります。第2回ふくさきマラソンには、昨年以上に多数のランナーが参加され、地域行事として定着してきました。また、福祉の眼で地域福祉への提言をさせていただき、学童および保護者への運動指導など地域連携の取り組みも着実に前進しています。学生たちは勉学や課外活動にいそしみ、特に運動部の活動はますます活気づいています。また、ボランティアサークルは例年以上に積極的に対象や活動場所を広げており、今後の活躍が期待されるところです。

さて、4月25日に発生したネパール地震において、本学にも母国の自宅の倒壊等の被災をした留学生が数名いました。姫路、大阪ともに学生達は積極的に協力しながら学内での募金や街頭募金などを行い、他者の痛みを分かち合える福祉の心を実感することができました。学生自身のしあわせはもとより、「すべての人々のしあわせ」の実現を目指した本学の福祉教育が学生の中に根づき、さまざまな場所においてそれを実行できる人になってほしいと願っています。

本学の創始者が示されている「時代を創造する青年の個性を伸ばし、自信をつけさせて世界に送り出したい」という建学の精神に基づき、教職員は学生の持つ個性を引き出し、それを伸ばしていき、学生は各自の目標に向かって努力し、結果に結びつけてほしいと思います。

どうぞ、ご子弟の一人ひとりが誇りを持ち、社会において立派に活躍されますように、教職員一同一層頑張っていく所存でございますので、保護者の皆様におかれましても、本学の発展のためにご理解、ご協力、ご支援を引き続き頂戴できますように心よりお願い申し上げ、ご挨拶いたします。

入学式

学生部長 柴原なおき樹



4月11日（土）、姫路キャンパスにおいて「平成27年度神戸医療福祉大学入学式」が挙行されました。式典は国歌斉唱に始まり、学長告辞、学園総長式辞、来賓代表の祝辞、入学生代表宣誓、在学生代表歓迎のことばを経て、学歌斉唱で幕を閉じました。

式典終了後、在学生および教職員によるサプライズのダンスが披露され、クラッカーの音と色鮮やかなテープが舞い散る中、盛大な拍手とともに新入生全員が歓迎を受けました。厳謹な式典と対照的に躍動感に溢れた演出は新入生のみならず御父兄の方々にも大いに満足していただけたと思います。

新入生の皆さん、新たに始まる大学生活をどのように過ごそうとお思いでしょうか。青春を謳歌するのもよし、部活動やボランティア活動に専念するのもよし、また勉学に励むのもよし。ただし、大学生活の中で多くの人たちと交流し、共に福祉の未来について思いを馳せ、お互いの夢を語り合うことで真の自分を発見していくことを望んでいます。単に福祉の専門知識を身に付けるだけでなく、人生観や倫理観を再構築しながら自分の生き方を見極めてください。

大学教育におけるグローバル化が加速する中にあって、自ら考え、責任をもって行動できる力や、他人の苦しみや喜びを我が事のように感じ思いやる心の涵養が重要視されています。新入生の皆さんにとって、本学の建学の精神である「個性の伸展による人生練磨」を実践していくことが、独自性と信頼性、そして共感性を兼ね備えた国際的な人間として大きく成長させ、将来、福祉の現場における先導者となるべき道へ通ずると信じています。そして、本学が皆さんの誇りに思える大学であることを私たちは強く願っています。

最後になりますが、大学生活の新たな一步を踏み出した新入生の皆様の、今後のご活躍とご健闘を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。



第3回 サマーキャンプ



本学の姫路キャンパスでは、毎年夏休みに親子サマーキャンプを開催し、地域社会に貢献する取り組みを行っています。

第3回目となる今回は8月8日（土）～9日（日）に行われ、水遊びやバーベキュー、竹細工づくり、キャンプファイヤーなどさまざまなプログラムを楽しみました。準備や当日運営にスタッフとして参加した学生達は、小学生と一緒に楽しみ、大活躍の2日間でした。

第2回ふくさきマラソンを終えて

講師 永吉俊彦

4月26日（日）に第2回ふくさきマラソンが開催されました。晴天の中、招待選手7名を含む481名が参加しました。昨年に引き続き2回目の開催で、本学の学生はもとより近隣からも多くの方々にご参加いただきました。マラソンは2.5kmで折り返す全長5kmのコースによって行われ、柔らかい春風の中、スタートの号砲とともに招待選手をはじめ一般参加者が一斉に力強い走りでスタートをきっていました。地元の小中学生や親子連れの方々なども多く、遠くに望む新緑の木々を目にしながら気持ちよさそうに走っていました。沿道では多くの方々に声援をおくっていただき、参加者も気持ちよく汗を流していました。フィニッシュ地点では、少しでも記録を伸ばそうと多くの方々が競い合うよう走り抜けていました。

今回、私は競技運営という形で大会をサポートする役割でした。次回大会は春風に吹かれながらみなさんと一緒にマラソンコースを走ってみたいですね。

大会参加者
男性 342名
女性 139名
(招待 7名含む)
計 481名



がんばろう
☆ネパール！



大地震募金活動報告

経営福祉ビジネス学科 4年

SUBEDI BISHNU PRASAD



街頭募金の様子



募金の引き渡し式

4月25日、母国ネパールをM7.8の大地震が襲いました。5月12日にはその余震と見られる大きな地震も発生しました。ネパールだけでも8,700人を超す人々が亡くなったほか、多くの方々が家を失い、今も屋外で避難生活をしています。

本学のネパール人留学生の中で、家族が犠牲になった者はいませんでしたが、家屋等に被害のあった者はいました。私たち留学生は、悲しみと悔しさを感じながら、今、自分たちにできることは何かを考えました。そして、募金活動をすることにしました。

まず本学の2つのキャンパスで、次に親睦会を行ったB B Q会場で、さらにJR桃谷駅前で募金活動を行いました。「負けないで！」「がんばれよ！」など励ましの声もたくさんいただきました。学内外から寄せられた善意の気持ちは30万円を超え、6月7日に海外在住ネパール人協会関西支部に引き渡しました。たくさんの募金、本当にありがとうございました。

学友会

姫路キャンパス

社会福祉学科 福祉心理コース2年

学友会運営委員会委員長 塩崎亞由生



学友会運営委員会では、自分達で学校生活を盛り上げていこうとイベントを計画し、その実施に向けて取り組んでいます。

7月には夏の風物詩を楽しもうとボランティア活動支援センターと合同で「七夕イベント」を企画しました。学友会運営委員会企画として「天の川の手形あーと」を、ボランティア活動支援センター企画として「かき氷イベント」を行いました。多くの学生や教職員の方々に協力していただき、1つの絵を完成させることができました。また願い事の書かれた短冊や色鮮やかな折り紙で作られた七夕飾りが筐に飾られ、日本の伝統行事

を身近に感じられ、留学生が日本文化と触れ合える良い機会となったと思います。

目安箱に寄せられる学生の多くの声を反映できるよう、学生が有意義な学校生活を送れることを目指し、活動をしていきたいと思います。今後とも学友会運営委員会を宜しくお願い致します。



大阪天王寺キャンパス

経営福祉ビジネス学科3年

学友会会长 井元雪夏



初めまして。大阪天王寺キャンパス 2015年度学友会長、井元雪夏です。どうぞよろしくお願いします。

本年度は3月30日に新入生歓迎会、5月16日に奈良県信貴山にて春の親睦会、7月3日には校内で七夕会を実施しました。

本年度の七夕会では、留学生たちにも気軽に浴衣を着る機会を持つもらうという趣旨から、初めてレンタル浴衣制度を導入しました。大勢の学生、教職員が浴衣を着ている姿はとても新鮮で、校内にたくさんの花が咲いたかのように華やかでした。

ランチタイムには学友会主催のイベントを企画しました。餅つきで力試しをしたり、スーパー博覧会で水しぶきを上げたりした後は、カキ氷でのどを潤しました。また、スイカ割りは初めてという留学生たちは、友達をからかうたり応援したりと、大声援でにぎわっていました。

これからも学生みんなが楽しめる学校作りを模索し、大阪天王寺キャンパスを盛り上げていきたいと考えています。ご声援のほど、どうぞよろしくお願いします。

学園祭に向けて

健康スポーツコミュニケーション学科3年
播彩祭実行委員会委員長 大野寿也



みなさん、こんにちは。こうふくフェスタ 第16回播彩祭実行委員会で委員長を務めさせていただきます。健康スポーツコミュニケーション学科3年の大野寿也です。

今年は10月24日(土)・10月25日(日)の2日間にわたり『こうふくフェスタ 第16回播彩祭～瞬(またたき)～』を開催致します。

さて、今年のサブタイトルは『～瞬(またたき)～』です。播彩祭の一瞬一瞬が皆様の大切な思い出になるように、という意味が込められています。播彩祭に参加いただいた方、また企業や業者の方々の記憶に残る学園祭になるよう、私たちと一緒に播彩祭を大いに盛り上げて頂ければと思います。そして来てよかったです、参加してよかったです、と第16回播彩祭が皆様にとって最高の2日間になるよう全力を尽くしたいと思っております。

最後になりましたが、後援会の皆様には多大なるご支援・ご協力をいただき誠に感謝申し上げます。播彩祭実行委員会一同、皆様のご来場を心よりお待ち申し上げております。



「辻川山公園の河童(カッパ)」



地
域
紹
介

准教授 黒木利作

福崎町の辻川山公園には2匹の河童像が設置されています。そのうちの1体は池の中にはあって、昼間の時間帯（30分に1回）出没し、全国放送のバラエティ番組にも紹介されました。休日ともなると、今でも見物する人が多く訪れています。

福崎町は柳田國男ゆかりの地であり、彼の著書『故郷七十年』の中にも「駒ヶ岩の河太郎」と題して、町内を流れる市川の河童伝説について記載されています。

また辻川山公園周辺は、この河童のほかにも、町の特産である「もち麦」を使った料理を提供する「もちむぎのやかた」や柳田國男生家など、見どころが集中しているところであります。福崎町に来られた際はぜひお立ち寄りください。

(参考：福崎町ホームページ)

教職課程の取り組みについて

教務部長 あだちやすのり 紀足立泰

近年、社会の変化に対応して多様な大学教育が展開しておりますが、その一方で教育行政からは「大学教育の質の保証」が強く求められております。本学も、創始者の教育理念に基づいたアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーによって系統だった教育課程を編成し、日々教育の質の保証、向上に努めております。教員相互の授業参観や学生による授業評価といったFD活動を、今年度さらに充実させ、学生にわかりやすい授業を行うよう心がけ、学習が一層の成果を生むよう取り組みを行っております。また、シラバス内容の充実化、履修評価の厳正化、教育施設の改善なども、大学の自立的な自己点検・評価への取り組みのなかで、キメ細やかに取り組んでおります。最近「地方創生」が注目されておりますが、本学のような福祉系大学は、今後、地域における知の拠点としても、また地域社会で活躍できる優れた人材を育成する教育機関としてもますます期待されると思われます。近未来の社会ニーズを先取りした教育を一層充実化させていきたく思います。



〈キャリア演習授業～労働法を学ぶ～〉

キャリアサポート部の 取り組み

キャリアサポート部長
いどむつお
井土睦雄

日頃は格別のご支援をいただきしておりますこと、心よりお礼申し上げます。

キャリアサポート部では、入学から卒業まで、学生のみなさんの進路開発に向け、学生自らがより良くチェンジ(変化)し、仕事にチャレンジし、そしてチャンスをつかめるように支援したいと考えております。

その支援としましては1、2年次のキャリア演習授業を通じた進路に向けた

意識啓発や適性診断、社会活動体験、社会現場スタッフからの労働知識の重要性や体験を通じた職業の魅力等を学ぶ機会を取り入れているところです。それらを進路開発のスタート台にしながら、本学の教育課程での学びや社会福祉や教育実習、職場体験実習（インターンシップ）へと結びつけ、体験学習で培った職業への思いを糧に、3、4年次での個別ゼミナール指導や就職活動へ継承できるようにサポートしております。

昨今の社会状況をみておりますと、労働環境も大変厳しいものがあり、仕事へのやる気だけでは通用しないほど、ストレスのかかる社会になっています。その克服のためには、生きがいが持てること、同士や仲間と存在感を確かめ合い、そして自分なりの生活が実現できることが求められていると思います。つまり「ワークライフバランス」を実現できる力です。その実現には根気良さが求められます。そして多くの仲間や関係者と良きコミュニケーションをはかり、多くの方々に自信を持って自分の適性や能力を示し、自身のやりがいや役割、存在を感じ取ることが大切となります。

過日に内定をいただいた福祉希望の学生と面談をしておりますと、やはり、大学での地域貢献活動や学習で得た福祉への思いが伝わってきます。また、子どもたちとのスポーツ活動にかかわった学生は指導者を目指して張り切っています。大阪キャンパスでは日本企業就職へのあこがれを現実にしようと日本語力と経営の学習に力を注ぐ学生がいます。そうした気持ちが持て自信がみなぎる学生に育っていくように、今後もサポートしていきたいと思います。

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験にむけて

国家試験対策委員会

副委員長 伊藤秀樹

平素よりご子息・ご息女の教育支援に対しまして、格別のご高配を賜り誠にありがとうございます。今年の1月に実施された第27回社会福祉士国家試験では5名、第17回精神保健福祉士国家試験では2名の現役合格者という結果になりました。昨年と比較して厳しい結果となり、後援会の皆様からは多大なるご支援をいただいているなかで大変申し訳なくおもっている次第です。

そこで合格発表直後に、国家試験受験者を対象に本学の国家試験対策講座に関するアンケート調査を行い、これら学生の声を含めた国家試験指導全般の総括を関係教職員と行い、本年度は合格に向けての新たな取り組みをスタートいたしました。また、学生が仲間とともに楽しく勉強ができる自習室や、静かに集中して勉強できる自習室など環境面での整備にも力を入れています。最後に、本年度も学習支援のための多くの補助をいただき本当にありがとうございます。後援会の皆様のご期待に応えられるように、今後一層の努力を積み重ねていく所存でございます。

合格体験記



社会福祉法人柊野福祉会

はやし
林 里花

私が勉強を本気で取り組み始めたのは、4回生の9月末。かなり遅いスタートでした。試験に向けて、授業には必ず参加し、1日10時間以上勉強しました。受かりたい強い気持ち・綿密な勉強計画・自己覚知が重要だと思います。また、問題を出しあったり休憩時間には談笑をしたりと、共に勉強を頑張った友人の存在も大きかったと思います。

今は、特別養護老人ホームで介護福祉士として働いています。机上の学びとは違い、分からぬこと・戸惑うことの連続で、勉強の毎日ですが、ご利用者様の暮らしを支えられるよう頑張っています。

これから沢山経験を積み、介護福祉士・社会福祉士の視点から高齢者の生活を援助できる、そんな専門職員になれるよう励んでいきたいです。

先輩に聞く



兵庫県社会福祉事業団 赤穂精華園

にしぐちしょうた
西口昌太

現在、私は兵庫県社会福祉事業団の赤穂精華園で働いています。当園は知的障害者の入所施設で生活全般の支援をする仕事をしています。在学中はソーシャルワーカーを志望し、4回生の夏に精神科病院で相談業務に携わる実習をしました。実習を通してワーカーを目指すなら、福祉全般（高齢者・児童・障害者・就労支援・その他）の分野での現場経験の必要性を痛感しました。そんな折、兵庫県社会福祉事業団の就職説明会に参加しました。県内100か所弱の事業を展開しており、一つの企業内で様々な福祉分野の現場経験が積めるという考えから応募し入社に至りました。在学中は入所施設での支援業務はあまり興味がありませんでしたが、経験を積む中でその魅力を発見することができました。

在学生の皆さんには、自らの足で先生や社会人の方々の話を聞いたり、体験する機会を作って下さい。

留学生の国籍構成に異変！？

今年4月、大阪天王寺キャンパス（経営福祉ビジネス学科）には、日本、中国、ベトナム、ネパール、フィリピンの5カ国から約140人の学生が入学しました。これまで毎年度、中国人留学生が最も多かったのですが、今年度は初めてベトナム人留学生が過半数を占めました。そのせいでしょうか、キャンパスの空気や色彩もこれまでとはどこか違っているように感じられます。

ところで、このような国籍構成の変化は本学だけに見られる現象なのでしょうか。法務省の出入国管理統計から、在留資格《留学》で新規入国した外国人（国籍別）の推移（平成23年～平成26年の4年間）をみますと、下表のとおり、中国人留学生は増減を繰り返していますが、ベトナム人留学生は平成25年に、ネパール人留学生は平成25・26年に急増しています。新規入国した留学生の多くは1～2年間、日本語学校で日本語を学習した後、大学や専門学校等へ進学したり就職したりします。このことを踏まえると、今年度、大阪天王寺キャンパスでベトナム人留学生が急増したことも特に不思議なことではないことがご理解いただけるでしょう。ちなみに、ネパール人留学生は昨年度は1人だけでしたが、今年度は4人入学しています。

国際交流センター大阪分室では、急増するベトナム人留学生の在籍管理、相談事への対応などを充実・強化するため、ベトナム人の女性スタッフ1名（写真）が加わりました。ベトナム人留学生の“心強いお姉さん”として大活躍中です。

今後も留学生の国籍構成は様々な要因により変化していきますが、大阪天王寺キャンパスでは、時の流れを見誤ることなく、変化に柔軟に対応していきたいと考えています。



ベトナム人スタッフ
ゲン・ティ・ジェム・ニュン

表. 在留資格《留学》の新規入国外国人の推移（国籍別）

国籍・地域	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
中國	23,858	26,554	24,583	28,566
ネパール	976	1,830	4,864	8,013
ベトナム	1,864	4,372	14,098	14,862

今後の主な学事日程

日 稲	内 容
平成27年	9/24(木)～26(土) 再試験期間
	9/28(月) 後期授業開始
	10/20(火) 学園創立者記念日
	10/24(土)・25(日) 学園祭
	12/25(金) 年内最終授業
	1/5(火) 後期授業再開
	1/27(水)～2/6(土) 後期試験（追試験含む）
	2/12(金) 後期成績発表（成績配布）
	2/17(水) 卒業時共通試験（介護福祉士）
	2/17(水)～2/20(土) 再試験期間
平成28年	2/22(月)～3/4(金) 保育所実習
	2/22(月)～3/10(木) 介護実習I
	3/17(木) 学位記授与式（予定）

フレッシュマン交流会

4月4日、フレッシュマン交流会が開催されました。先輩学生達が中心となり企画から運営まで行い、新入生と共にゲームやパフォーマンスを楽しみ、親交を深めました。



新任教員の紹介



社会福祉学科医療福祉コース

教授 木村 泰子

達成感のある授業を目指します



社会福祉学科医療福祉コース

助教 丸山 あけみ

学活（学生生活）応援フェア常時開催中！



社会福祉学科介護福祉コース

教授 本多 浩子

転ばぬ事より転んだ時の起上り方を伝えたい。



社会福祉学科介護福祉コース

教授 河野 売一

相依為命。LGBT 支援受付中！



社会福祉学科こども福祉コース

講師 半田 弓理

児童福祉の教育のため、精一杯励みます。



社会福祉学科福祉心理コース

教授 岩崎 文治

共に卒業まで頑張りましょう。



健康スポーツコミュニケーション学科

教授 柴崎 建

ともに学び、ともに成長できるよう頑張ります。



健康スポーツコミュニケーション学科

講師 矢野 裕介

体育・スポーツを通して、教育と研究に尽力します。



経営福祉ビジネス学科

教授 谷口 卓

社会福祉士養成に精一杯頑張ります。



経営福祉ビジネス学科

助教 滝内 ひろ子

留学生教育充実に向けて頑張ります！

発行日：平成27年9月1日

発 行：神戸医療福祉大学後援会

事務局 学生課 〒679-2217 兵庫県神崎郡福崎町高岡 1966-5

TEL (0790) 22-5125 FAX (0790) 22-6941 E-mail:gakuseibu@sw.kinwu.ac.jp